

1 夏秋トマト側枝果房利用栽培における栽植様式

(園試 野菜花き部)

側枝果房利用栽培の栽植様式は慣行栽培と同じ畦幅 200 cm、株間 40 cm、2条植(250株/a)とする。適応地域は県下全域。

(1) 背景とねらい

- 1) 夏秋トマトは8月が収穫最盛期であるが、比較的価格の安定する9月は草勢の低下にともない品質及び収量の低下が著しい。そのため9月の品質、収量の向上対策が求められていた。
- 2) 側枝果房利用栽培で9月の収量が慣行の50~60%増収することは、すでに明らかにしたが栽植様式の違いで更に果実の肥大性や裂果の発生状況の違いが明らかになった。

(2) 技術内容

- 1) 側枝果房利用栽培の栽植様式は、慣行栽培と同じうね幅 200 cm、株間 40 cm、2条植(a当り250株)とする。
- 2) 適応地域 県下全域

(3) 指導上の留意点

- 1) 果実肥大を重視する場合は、収量がやや劣るが、条間90cmとする。
- 2) 側枝の摘心は側枝第1果房上2~3葉残して行う。また主枝果房の着果数は慣行栽培に準じて4果程度とするが、側枝果房は2果残し、他は摘果する。
- 3) 側枝果房利用栽培は、果実の肥大が低下しやすいので、徒長苗、老化苗の使用は避ける。
- 4) は種期、肥培管理は慣行栽培に準じてよい。

(4) 試験成績の概要

- 1) 試験課題名 夏秋トマト側枝果房利用栽培における栽植様式
- 2) 試験年次および場所 昭和55~56年 岩手県園芸試験場
- 3) 試験方法

(ア) 供試条件

昭和55年

試験区	栽植様式
① 条間 70 cm (250株/a)区	畦幅 200 cm 株間 40 cm 2条植
② // 90 cm (227 //)区	// 220 cm // 40 cm //
③ // 110 cm (208 //)区	// 240 cm // 40 cm //

但し、側枝利用法は1~6段果房直下側枝利用とした。

昭和56年

試 験 区		栽 植 様 式				
①	条間 70 cm (250 株 / a) 区	畦幅 200 cm	株間 40 cm	2 条植	条間 70 cm	
②	" 90 cm (227 ") 区	" 220	" 40	" "	90	
③	" 110 cm (208 ") 区	" 240	" 40	" "	110	
④	株間 44 cm (227 ") 区	" 200	" 44	" "	70	
⑤	" 48 cm (208 ") 区	" 200	" 48	" "	70	

但し、側枝利用法は3～6段果房直下側枝利用とした。

(イ) 1区面積および区制 1区16～19㎡(40株) 2区制

(ロ) 供試品種 あづさ

(ハ) は種期 55年3月24日まき 5月19日定植

56年3月25日まき 5月21日定植

4) 試 験 結 果

(ア) 55年は7月以降の高温期の気温が比較的低めに経過したため、果実の着果、肥大はむしろ良好であったが、56年は5～6月の開花結実期からの異常低温のため、低段果房の着果が劣り、更に8月以降の低温で果実の肥大が低下した。

(イ) 株当たり収量と条間との関係では、条間が広いほど収量がまさる傾向を示したが、a当り収量では、逆に両年とも条間の狭い70cm区がまさった。しかし条間90cm区と110cmでは年次間差があり、一定の傾向はみられなかった。

(ロ) 良果の1個平均重は条間90cm区がややまさり、出荷の中心規格であるL級(210～280g)の比率が高かった。このことは時期別1個平均重の推移でも同様の傾向がみられ、特に9月以降の後期の1個平均重では明らかに条間、株間の広い区がまさる傾向を示した。

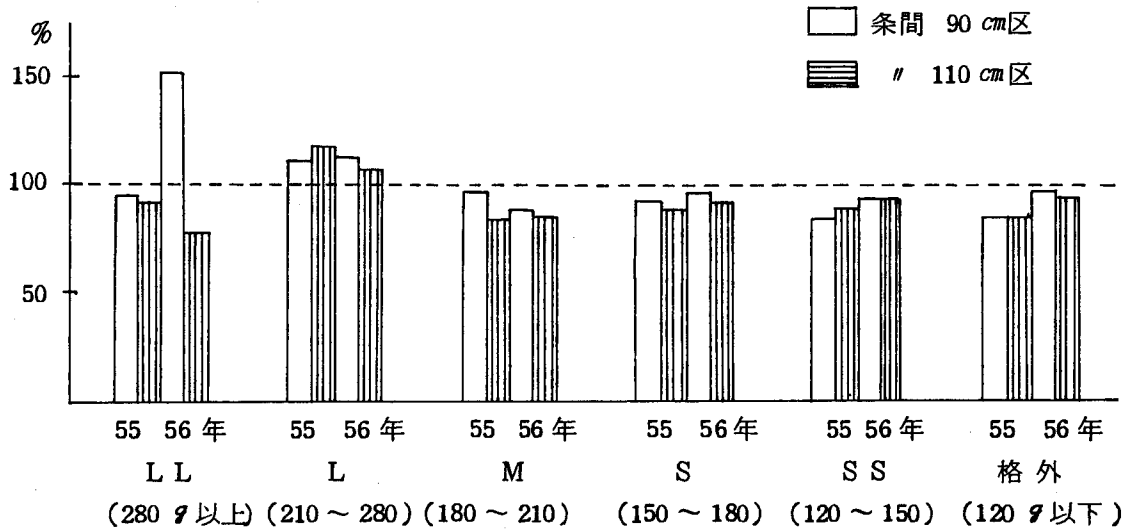
(ハ) 9月以降の後期収量は両年とも条間70cm区がまさったが、条間90cm、110cm区の間では年次により異なり、一定の傾向は認められなかった。

(5) 主要成果の具体的データ

第1表 収 量 (40株当り)

試 験 区		良 果		格 外 果		合 計		1 個 平 均 重		障 害 果			a 当 り 収 量	
		個数	重量	個数	重量	個数	重量	良果	合計	変形果	病果	裂果	収 量	比率
55 年	①条間 70 cm	1,073	196	229	22	1,302	218	183	168	112	11	59	1,226	100
	② " 90 "	1,093	204	207	20	1,300	224	187	173	130	17	84	1,159	95
	③ " 110 "	1,167	217	222	22	1,389	239	186	172	111	20	74	1,127	92
56 年	①条間 70 cm	544	91	175	17	719	108	168	151	90	32	6	571	100
	② " 90 "	556	95	192	18	748	113	171	150	125	34	8	538	94
	③ " 110 "	589	99	201	19	790	118	168	149	134	28	11	515	90
	④株間 44 cm	530	88	172	16	702	104	167	149	120	25	11	501	88
	⑤ " 48 "	566	97	205	19	771	116	171	150	121	38	8	504	88
慣 行 区		458	81	118	11	576	92	176	159	76	19	5	503	88

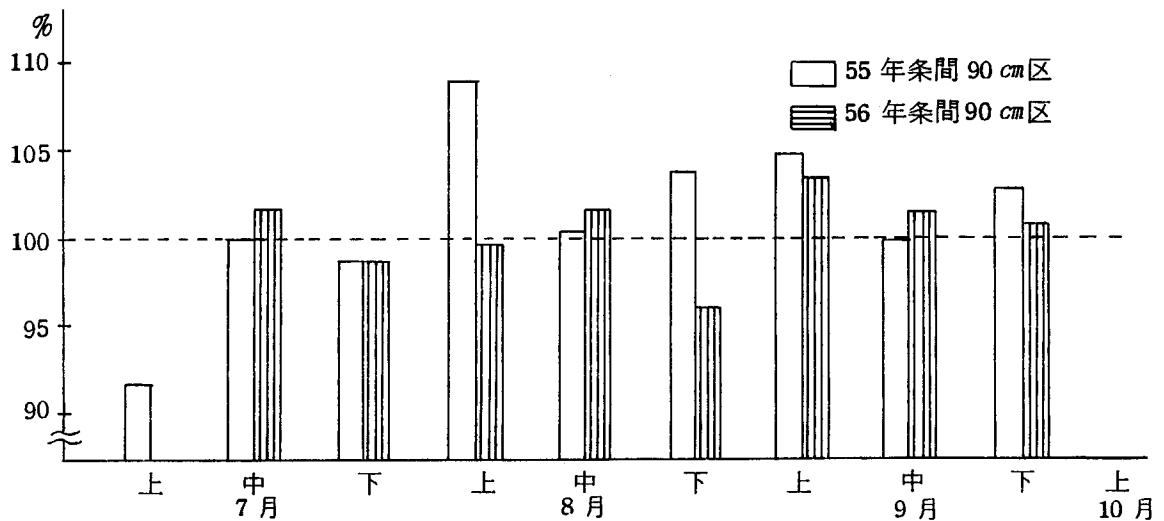
※慣行区は主枝1本仕立(畦幅200cm、株間40cm、2条植条間70cm)



第1図 規格別収量比 (対条間70cm区)

第2表 時期別収量 (a当り)

試験区	7月			8月			9月			10月	9月以降		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	収量	収量比	
55年	①条間 70cm	1Kg	79Kg	216Kg	126Kg	204Kg	209Kg	170Kg	171Kg	46Kg	-Kg	387Kg	100
	②" 90"	5	72	214	118	208	215	138	132	57	-	327	84
	③" 110"	2	62	185	102	187	226	169	149	46	-	364	94
56年	①条間 70cm	-	108	38	24	14	49	161	71	97	9	338	100
	②" 90"	-	62	39	24	11	69	173	74	78	9	334	99
	③" 110"	-	68	30	24	15	72	145	81	76	4	306	91
株間	④株間 44cm	-	76	30	23	10	63	142	64	81	13	300	89
	⑤" 48"	-	69	25	26	16	68	145	66	76	14	301	89
慣行区	-	119	49	28	17	58	114	60	55	2	231	68	



第2図 1個平均重の時期別推移 (対条間70cm区)

参 考 資 料 a 当り時期別収量と販売金額

時 期 別		7 月	8 月	9 月	1 0 月	合 計	販売金額	同 比
平 均 単 価		118.8 円	136.0 円	144.8 円	198.2 円	—		
5 5 年	側枝利用	306.9 Kg	465.0 Kg	419.4 Kg	— Kg	1,191.3 Kg	160,422	118
	慣 行	358.1	411.9	260.6		1,030.6	136,300	100
5 6 年	側枝利用	145.6	87.6	328.8	9.4	571.4	78,684	116
	慣 行	168.8	103.1	228.8	1.9	502.6	67,582	100

※単価は中央卸売市場における過去5年間の平均

(6) 残された問題点

側枝果房利用栽培における適正着果量について